

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和元年度第2回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和元年10月4日(金)午前10時から午前11時56分まで
- 3 開催場所 駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、佐藤美佳副会長、佐々木義夫委員、角田フミ子委員、
 - (2) 事務局 相原浩子、横山太一、菅井晶、伊藤博人
永沼威雄、高橋ゆかり
- 5 会議の公開・非公開の別
公開
- 6 傍聴人の人数
0人
- 7 会議の概要
報告事項
 - (1) 児童による高齢者生活支援体験事業
「ぼくたちわたしたち 暮らしのてつだい隊」について
 - (2) 地域福祉力UP情報交換会について(不動堂・小牛田・北浦会場)
 - (3) 暮らしのサポーター養成講座について
 - (4) 生活支援体制整備協議会委員視察研修について
 - (5) 生活支援コーディネーターの活動について(7~9月)
 - (6) 前回のふりかえり

協議事項

- (1) 美里町の現状とこれからの美里町について
～いつまでも自分らしく暮らせる美里町を目指して～
- (2) “生活支援”の捉え方について
- (3) 生活支援体制整備事業啓発パンフレットについて

署名委員

佐々木義夫委員、角田フミ子委員

(2) 協議事項における詳細な意見

高橋	<p>これより令和元年度第2回美里町生活支援体制整備協議会を開会します。本日は10時からお昼くらいまでを目処として進めてまいります。よろしくお願いいたします。</p> <p>開会のあいさつを小野委員からお願いいたします。</p>
小野委員	<p>皆さん、おはようございます。台風の影響はありませんでしたが気温の変動が激しく風邪気味の方もいるようですが、体調管理はそれぞれしっかりとなさるようにしてください。</p> <p>先日は柴田町へ研修で訪れ非常に刺激などを受けながら、ここまでやってきましたが、わが町もそれなりの期間、この事業を進めてきて、ある程度は波に乗ってきたかなと思う場面もあります。これからも皆さん方の御協力を以てこの事業を推進できたらと思います。</p> <p>本日も協議事項が多めですが、スムーズに進行できるようご協力をお願いします。</p>
	<p>署名委員については事務局一任ということで、佐々木義夫委員、角田フミ子委員に決定した。</p>
高橋	<p>それでは早速、3.報告に入ります。</p> <p>(1) 児童による高齢者生活支援体験事業「ぼくたちわたしたちくらしのてつだい隊」についてです。資料の1ページ目を御覧ください。</p> <p>子どもたちの夏休み期間を活用しまして、今年度も暮らしの手伝い隊を実施しました。今年度は8月1日と8日の2回に分けて実施しました</p> <p>両日とも参加者は4人ずつとなり合計8人です。訪問させていただいたお宅は3件となります。</p> <p>実施したお手伝いの内容は窓拭きだったり布団干し、お風呂掃除、掃除機かけ、食器洗いなど生活の中のちょっとした膝に負担がかかったり、腰が痛かったら大変だというような作業をお手伝いしていただ</p>

	<p>きました。8人の子どもたちに感想も書いていただいて、やはり家族以外の人から「ありがとう」を言われるのがすごく嬉しかったと書いている子どもたちもいました。他に保護者向けにアンケートも実施し2ページ目に載っております。こちらからも子どもたちの体験について帰宅してからも話題になっていたことがうかがえました。今後も地域の高齢者の方たちとのつながりが続くようにサポートしていきたいなと思っております。</p> <p>今回の事業報告も兼ねて9月1日発行の「おげんきですか第8号」に記事を掲載いたしました。時間のある時にでもご覧いただけたらと思います。</p> <p>(1)は以上になりますが皆さんから御質問等ございますか。</p>
小野委員	<p>先日の敬老会でこの事業で子どもたちに訪問していただいた方が「おげんきですか」の表紙に掲載されたと喜んでおりました。</p>
高橋	<p>1日と8日の2回お願いしました。ご本人も子どもたちが来てくれることが嬉しかったようで、たくさんお話ししてくださいました。来年度も事業の実施を検討していきたいと思っております。</p> <p>次に(2)地域福祉力UP情報交換会についてということで、資料が5ページになります。</p> <p>7月23日に不動堂地区社協、8月21日に小牛田地区社協、26日に北浦地区社協で開催しております。例年ですと情報交換会は地区社協の方たちと打ち合わせをしてテーマを決めていただいたのですが、今年度は地域のお宝の再発見ということでいかがかと提案させていただいて了解をいただいた地区社協の方々と共催という形で実施しております。</p> <p>ちなみに小牛田地区社協と北浦地区社協は仙台白百合女子大の志水先生に来ていただいて、地域のお宝とはというところで話題提供していただいております。テーマは共通して地域のお宝再発見ということでグループワークを通して情報交換しました。行政区内の地域の活動など意見を出してもらって、その後、暮らしの中のさりげない支え合い、名前のない地域のお宝を出していただいて、最後にそのたくさん出たお宝の中から1つ選んで、そのお宝の効果・効能、意味づけをしました。最後に情報共有としてグループ毎に発表して振り返りを行いました。6ページから33ページまでが行政区毎に書いていただいた地域のお宝になります。量がたくさんあるので時間があるときにでも見ていただきたいなと思っております。</p> <p>話し合ったキーワードを5ページに載せているのですが、最初に</p>

	<p>行政区内の地域活動、名前のある地域活動について出してもらいました。見ていくとどの行政区も自治会主体が多く書かれていたのですが、ボランティア団体・老人クラブとか婦人会などの地域の団体主体の活動のほか愛好会などの活動がたくさん行われていることがわかりました。</p> <p>地域の活動を改めて出していただいたことで、それぞれの地域活動の目的だったり内容を振り返ることができました。</p> <p>2番目の名前の無い地域のお宝では、こちらもたくさん出していただいたのですが、普段の暮らしの中で自然発生的にゴミ捨ての手伝いだったり、見回りとかといった生活支援が既に行われているということがわかりました。あと趣味の活動とか隣近所のお茶飲みとかの集いの場は社会参加するきっかけとなったり、地域の居場所になっていることがわかりました。</p> <p>その中で課題も出てきたのですが、今後、地域の活動とか行事に参加しない方についても働きかけが何か必要だよねという意見も出ております。</p> <p>最後のお宝の効果・効能の意味づけについてというところでは、夏祭りや昔から代々受け継いでいる地域の伝統とか文化、そういったものは地域全体を繋ぐきっかけになっていて、世代を超えて交流できる貴重な機会なのだなということが意見として出されていきました。</p> <p>他に地域内の活動に参加することで役割が生まれたり生きがいとなって健康づくりや介護予防につながっているということの意味づけされているところもありました。</p> <p>地域内の多くの集まりや活動は、その中で相手を気遣う関係性が育まれたりして、ちょっとした困りごとなどをその場で解決してたり、他につないだりとか、さりげない生活支援に発展しているということがわかりました。</p> <p>以上です。質問や補足等ありますか。</p>
永沼	<p>補足でいいですか。今年度これまでに3か所実施したところですが、地区社協エリア単位、小学校区単位という事で予定をされていて南郷、中卒の今の状況と青生の状況についても併せて報告いただければと思います。</p>
高橋	<p>南郷地区社協は11月から12月を目途にまとめて実施予定となっております。青生地区社協については、例年、見守り協力者会議で情報交換会を行うということになっております。</p> <p>中卒地区社協については1月頃に実施できたらと考えております</p>

	<p>が、調整が難航しており実施しない可能性もあります。</p> <p>以上です。</p>
永沼	<p>青生地区についてはこのテーマで行えるかというところ少し難しいかと思うので、地区の気になっていることなどを話し合うようなテーマになるかなと思っております。青生の方は個別に内容等をお聞きしていくような形になると考えております。これにより基礎資料をまとめ、コーディネーターが動くときの参考となればと思います。</p> <p>南郷エリアは連合体の形を取っているのですが、小牛田エリアは地区社協と詰めていくのですが、南郷地区はある意味町社協が主導して、あちら選出の理事さんと日程などの調整をして参集していただき開催という形を取っております。</p> <p>いろいろ開催する要件も違うので、そのへんも考えていきます。</p>
角田委員	<p>小さい単位の取組は人口そのものが減っていくと行政区単位で行っていると活動そのものができなくなっていくということも考えていただきたい。</p>
高橋	<p>続いて(3)暮らしのサポーター養成講座についてに移ります。資料34ページになります。</p> <p>去年の3月の協議会でも話題にはしましたが、元々、平成21年度から社会福祉協議会でサロンサポーター養成講座として開催してきたものです。今年度からは地域での暮らしのあらゆる場面においてニーズキャッチの視点を以て仲間とともに協働しながら地域の課題解決に向けて取り組むことのできる人材を暮らしのサポーターとして養成することとして地域住民の福祉の意識の向上と「お互い様」の支え合い活動の充実を図ることを目的として開催しております。全部で6回シリーズとなっております。9月末に1回目を行いました。1回目の際には体制整備のほうからもお話をさせていただいて、生活支援について説明いたしました。グループワークを通して昔の支え合いと今の支え合いの違いなどについて考えてみました。先日、火曜日には講師の方をお呼びして実施しました。来週も開催を予定しておりますし月末にかけても実施予定であります。</p> <p>主催は社会福祉協議会なのですが体制整備協議会においても共催ということで実施させていただいております。</p> <p>36ページ目以降が1回目の養成講座の際に使用した資料になります。時間のあるときにでも御覧いただければと思います。</p> <p>以上になります。何かご意見やご質問などございますか。</p>
永沼	<p>生活支援が今年度のテーマということで開催しておりますので、暮</p>

	<p>らしをサポートしていく全般的なものが地域の中にあるということをご概略的に掴めるような講座になっておりまして、地域の方々向けに暮らしのことに目を向けていただくような、そういった方々の人材養成ということで今年度から始めた事業です。</p> <p>来年度移行もこのようなことを社会福祉協議会と体制整備協議会とで進めていけたらと考えております。</p>
角田委員	<p>6回の講座となると参加できるかわからないという状況になってしまう。続けて参加できるかわからないので断念する方もいる。</p> <p>6回の講座となるとハードルが高いかなと思いました。</p>
横山	<p>実際、今回は何名の方が参加されているのですか。</p>
永沼	<p>全部で41人が参加しております。</p> <p>前年度まではサロンサポーター養成講座としてお茶飲みのスタッフの養成をしていたのですが、そうではなくて、もっと大きな形で生活をサポートしていく人たちというもので、今年度から開催内容を変えまして実施しております。</p>
小野委員	<p>前回から継続している方や若い参加者もいるのですか。</p>
永沼	<p>継続している方もいれば新たにきた方も何人かおります。退職して新たに参加する方などもいます。</p>
小野委員	<p>女性の方が多いですか。</p>
永沼	<p>男性の方は1～2人程度しかいない状況です。</p>
角田委員	<p>講座を受けて、どなたが受けたかとか修了したかというのを情報として行政区長や民生委員など提供してもらえると何かあった際に、その方たちはボランティアに対して前向きでいらっしゃるから、色々とお声がけして、災害等の手助けになってもらえるかなと思うので、情報が欲しいです。もちろん個人情報なので情報提供を否定する方はいないとは思いますが検討していただきたいです。</p>
永沼	<p>今年も最終回でボランティアセンターに登録しませんかのご説明をして、地域の区長さん等に情報提供しても良いか承諾の有無も取って、承諾していただいた方に限り区長さん等に情報提供いたします。</p> <p>教えて欲しくないという方もいらっしゃるので、登録と情報提供に承諾いただいた方は何かあった際に区長さんや民生委員さんから声がけいただけるように体制整備いたします。</p>
角田委員	<p>よろしく申し上げます。</p>
高橋	<p>続いて(4)の生活支援体制整備協議会委員視察研修について報告いたします。資料43ページになります。</p> <p>9月10日に柴田町社会福祉協議会へ伺いました。協議会からは小</p>

野委員に参加いただいたところです。あとは町から横山さんと菅井さん、社会福祉協議会からは笠松会長と理事の黒沼さん、横山さん、永沼課長と私で参加いたしました。

柴田町で先進的に取り組んでいるふれ合いネットワーク互助事業について御説明いただきました。事業がどのような経緯でできたのかと、柴田では商工会の婦人部から、このような取組が必要なのではといった意見が出たことから検討委員会を設けてアンケートなどをとったりして事業ができていったというお話をいただきました。

主に移動サービスと家事援助サービスを行っているというところで、8割が移動サービス、2割が家事援助サービスの提供をしているということでした。視察の参加者からは事業の詳細について質問をさせていただきました。

他に町の社会福祉協議会が事業を運営することとなった理由について質問も出されました。町による事業実施は困難だといったことがあったりして、細かいところまで対応できる融通の利く町社会福祉協議会が運営する事になったとの説明をいただきました。

協力員の人材養成についてどのようなことをしているかの質問では、当初は講座を開催していたようなのですが、新規の参加が無くなってきたという事もあって、現在は開催していないということです。協力者の方々を対象としたフォローアップの講座は色々と開催しているということでした。

生活支援体制整備事業の取組については、生活支援コーディネーターの方からお話を伺いました。

美里町からは介護予防推進大会や、生協の移動販売の誘致と支援について質問させていただきました。他に協議体の開催等についても質問しました。資料の44ページに質問と回答を記載しております。時間のあるときにでも御覧ください。

会長も同行いただいたのですが、何か感想などあればお願いします。

小野委員	先方のコーディネーターなどはベテランの方で、こちらも刺激となった部分もあったでしょう。話すことが自信をもって喋られている。
永沼	包括支援センターを退職されて社会福祉協議会の生活支援コーディネーターとなったと聞いております。
小野委員	確かに柴田町は我々がやっていないような取組をやっており、それを利用する人も多い。ただ柴田町は槻木・船岡と町自体が集中して在るので、事業などが展開しやすいと話していただきました。美里町は街並みが広い範囲で住宅が続いているため効率的に事業展開できない。そ

	<p>のようなやりにくい部分もあるし、でも色々と話をしてくる、刺激を受けてくることは大事なことだと思いました。</p>
高橋	<p>今回の視察研修を参考に、今後も美里町でどんな取り組みができるか検討していきたいと思います。</p>
横山	<p>柴田町は平成3年からの取組なので、かなり時間をかけて、人だったりお金だったり、少しずつ作ってきた背景があると改めて思ったのと、社会福祉協議会が間に入って利用したい方と協力会員の方を繋げている。実際、住民の方にこういった支援を担っていただくというところで会員はもちろんそんなに多くはなく27人と書いてはいますけど凄いなと思いました。うちの町で仮にこのようなことを考えるとすれば、もしかすると何かのきっかけがあれば、手伝いできる人もいるのかもしれないということを思いながら話を聞いていて、それを例えばですけど、暮らしのサポーター養成講座のようなところから、その参加した人物のことをわかって、色々話をできたりするのもいいのかなと思ったところです。</p>
高橋	<p>続いて(5)の生活支援コーディネーターの活動について報告いたします。46ページから48ページが活動の日誌になっております。</p> <p>情報交換会などがあつたためサロンのほうにあまり行けていないのですが、地区社会福祉協議会の方々と関わりがあつたかなと思っております。1つ報告なのですが前回にお話ししたかもしれませんが3月に実施した啓発事業でお話ししていただいた方について、町内の事業所さんのケアマネジャーさんから利用者に対してお話を聞かせてほしいというお声かけをいただいて、8月末にお話しする機会を設けることができました。</p> <p>当事者だからこそお話しできるということもあり、貴重な時間になったと思いました。これからも地域の方々ももちろんなのですが、専門職が繋ぎ役となることもできたらと思っております。</p> <p>今後なのですが情報交換会で出た多くの「お宝」をこれから、現場をまわっていきたいなと思います。</p> <p>ほかに「おげんきですか」を9月1日に発行しました 以上です。</p>
高橋	<p>次に(6)の前の振り返りに入ります。資料49ページになります。</p> <p>前回、協議事項の中でグループワークを行いました。美里町でいつまでも自分らしく暮らせるためにというテーマでお話をしました。その中で美里町の目指す姿、どんな美里町だったら安心して暮らせるか</p>

	<p>というところでは、人との繋がりの中で役割と生きがいを持つこと、あとは安全で安心できる暮らしを続けることができることだよねというお話をいただきました。</p> <p>暮らしの中の課題も皆さんに出していただきました。移動手段の問題であったり、健康問題、支援、関わり方といったところ、あと制度、サービスの狭間の問題、繋がり希薄化といった課題が出ました。</p> <p>それに対して課題を解決する仕組み、もの、人など出していただきました。まとめたものが資料の49ページからとなります。</p> <p>今回、この後に協議事項のところでも前回のグループワークでまとめたものを、もう少し詰めて考えてみたいなと思っております。</p> <p>以上です。皆さんから何か質問や意見がございましたら聞かせてください。</p>
小野委員	<p>今の説明に対する意見などは協議事項において一括でお話することとしましょう。</p>
高橋	<p>了解しました。それではこのまま協議事項に移りたいと思うのですが、ここからは小野委員に進行をお願いしたいと思います。</p>
小野委員	<p>では報告事項が終わったという事で、4の協議事項に入りたいと思います。</p> <p>(1)の美里町の現状とこれからの美里町について、事務局から提案していただいて話し合いをしたいと思います。事務局よろしく願います。</p>
高橋	<p>先ず美里町の現状についてなのですが、横山さんからお話しただいてもよろしいでしょうか。</p>
横山	<p>現状についてというところなのですが、49ページのグループワークのまとめも見ていただきながら説明いたします。</p> <p>美里町も高齢者の方が年々増えているところと、一人暮らしの方というのも増えている中で生活支援の観点からすると、介護サービスの事業者がそれなりに多かったり、デイサービスなども多かったですりして、ケアマネジャーも近隣と比較して多くいらっしゃると思うので、介護サービスの利用などはしやすい町なのかなとは思っているところです。</p> <p>ただ、美里町は他の町と比べて要介護認定の申請をした際に要支援などの軽い認定結果が出る方が多くて、重度化する前から介護のサービスを利用したいと思う方がいらっしゃると思うところで、結果的に要支援という方が多かったですりします。</p> <p>逆に言うと要支援という形で認定を受けた方が、それより悪くなら</p>

ないように、できるだけ良い状態のまま暮らせるようにというのが美里町の理想の姿なのかなと思っているところでした。

みなさん、医療機関にかかられたりするのですが、町内にない診療科とかもあって隣の市とか町、あるいは仙台市に通院していますという方もいらっしゃるような状況で、そのような場合に移動の問題だとか出てきたりします。

介護サービスもそれなりにあったりするのですが、現状として軽度の方、要支援の方向けのサービスを考えた時に、例えばヘルパーさんとかでも要介護の方であれば対応はできるけれども要支援の方の利用は難しいなどといったことがあったり、助けてほしいけれどもサービスで助けてもらえない可能性が以前よりも生じているのかなというのを感じていたところでした。

更に今までも困りごとがある方が相談に来た際に、介護保険のサービスも万能ではなく、ヘルパーさんができないこともあったりします。そういったところを、今まではヘルパーさんが1時間で何千円とかいったような実費のサービスで補ったりとか、他にシルバー人材センターさんで何とかお願いしたりというようなこともしてきたのですが、最近少し課題かなと思っているのが生活困窮者の方に対する支援です。

実費で何とかするとか、どこかにお願いするにしてもお金が無いのですという方も最近増えてきているという実感があって、本当にぎりぎりの生活費の中で暮らしていたり、他に生活保護という制度はあるのですが何らかの事情で生活保護ではない方もいらっしゃると思うので、そういったところから生活の支援の仕方というのが以前よりも難しくなっているかなと、介護サービスでも事業所のほうでもヘルパーが対応できない、お金が無いから実費の利用もできないというようなところは目立ってきているかなと思います。

現状としてお話しさせていただきました。

小野委員

ありがとうございました。

今、横山さんから色々とお話ししていただきましたが、やはり高齢者の独り暮らしは多いですか。

横山

多くなってきております。

小野委員

独り暮らしであっても健康であれば問題ないのですがね。

佐々木委員

独り暮らしは、孤独な一人身の方は別として、家族がいて独り暮らしをしている方が多くいますよね。このような方々はいつまで独り暮らしを選択するのでしょうか。

横山	<p>これは人によります。お金があるかどうかとかでも変わってきますし、いずれ施設に入ることを自分で選んである方もおりますし、家族と一緒に住むことを誘った結果、同居を開始した方もおります。一番多いのは、独り暮らしだとしても自宅で最後まで暮らしたいということをおっしゃっている方が多くいるかなと感じています。</p> <p>同居したり、施設に入ったりというのは多いというわけではなくて、やはり最終的には施設だったり入院だったり出てくるかもしれませんが、基本的にはやはり自宅ですと暮らしていきたいという方が多い印象があって、そこをどのように支えることができるのかなというところが1つのポイントかなと思っておりました。</p>
角田委員	<p>私の住んでいる地域の方で例えると、要するに娘さんや息子さんのところに行っても疲れてしまって、ずっといることができないと言います。だから家に帰って来たいとのことなんです。</p> <p>こちらにいれば顔見知りもいるし、何もしなくとも自分の家だからリラックスできるということです。行っても子ども夫婦は忙しいし、迷惑をかけてしまう。1人でおかれても誰とお話するわけでもないし逆に疲れると感ずるようです。だから、ここで暮らせなくなったら施設に行きたいとおっしゃる方がいるのです。やはり高齢になってくると自分の居場所が息子夫婦のところにも娘夫婦のところにも無いのです。</p> <p>だから1人でいられなくなったら私を施設に入れてくれと子どもたちについている方が結構多いのです。</p>
佐々木委員	<p>特別養護老人ホームでも入所待ちで希望したタイミングで入れない方もいらっしゃいますし、だからといって施設を増やすわけにもいかない。そこが難しいですね。そこをどのように支えていくのかが重要だと思います。あと軽度の認知症があった場合にコーディネートが難しくなる。ある程度進むと安定してくるので大丈夫なのでしょうけど、身体的に自由度があって認知症が進むとヘルパーが訪問する日を忘れたりなど、よく話を聞きます。</p>
相原	<p>実は1人暮らしの方とか、今話題に出た、ある程度身の回りのことはできるのだけれど、ちょっと物忘れがあるという人たちが要支援という状態であることが多いです。そういった人たちの生活の支援は大事であり必要で、ちょっとした声がけだったり、見守るとか、少しのお手伝いがあれば自分でできるという方が多くいます。</p> <p>介護保険の制度でいくと、そのような人たちにはヘルパーが多く入ったりとかは制度としてできないので、何とかできないかなというこ</p>

	とで私たちも悩んでおります。
佐藤委員	今、サービスでも依頼を受けるのは支援の人たちが多いです。
佐々木委員	そのような方々は1人で暮らすことができるから介護度が軽く出てしまうのですよね。
相原	1人で暮らせる手段さえあれば元気に生活できるとわかるのですが、その手段がどうしても限られてしまう。
佐藤委員	プライバシーの問題で、少し認知が入っているということを近隣にどこまで発信しても良いのか難しいところで、地域の皆さんの見守りがあれば何とかできるのではというところもあるのですが、発信することがまず難しい。
佐々木委員	あとは地域に住んでいる人の理解度が高ければ良いのですが、意外と無い。
小野委員	現実、認知症というのは、ずっとそのような状態でないので難しい。程度もあるでしょうし。知られたくないという家族もいるでしょうし。要支援の認定を受けた方は結構いるのですか。
相原	認定されている方の約半分弱が要支援の方となります。介護までは必要ではないけど、ちょっとした手助けが必要な方がそれくらいいるのです。 別の面でいくと認定を受けていない普通の高齢者の方も多くいるわけです。高齢者の方で申請すると半分くらいの方が要支援になる可能性は出てきます。
小野委員	こういった行政区の情報は民生委員さんなど持っているわけですか。
角田委員	1人暮らしの場合は民生委員として訪問することもあるし情報提供があります。
小野委員	うちの行政区などは日中独居が結構いらっしゃる。家族と一緒に住んでいても日中1人の独居状態でいることがある。
角田委員	1人暮らしではなくとも、場合によっては情報としては入ってきます。何故かというと、その地域の人があの人最近様子に変だとか、いつもではないけど時々行動がおかしいとか、すごく身だしなみが綺麗だった人が髪ボサボサで歩いていたとか、そのような情報は入ってきます。 だけど、訪問はしても、その時の受け答えは普通だったりするので、御家族まで踏み込んでいくことが難しい。相談されればいくらでも対応するが、民生委員の性質上こちらから困り事はないかと入っていく

	立場ではない。
小野委員	個人情報の保護やプライバシーの侵害といったことがありますからね。
角田委員	本人もずっと認知症の症状が出ているわけではないから自尊心を傷付けるわけにはいかないのです。
小野委員	お茶のみ会に参加するとか、グランドゴルフなどの地域内の行事に参加する事によって様々な情報が出る。本来であるなら地域でこのような機会を多く持つべきだ。
角田委員	やはり年齢が上がって80歳も半ばを過ぎると、参加してくる方が1人欠け2人欠けとなってくる。
小野委員	地域の集まりの中で初めて聞く情報も多い。そのような場こそ区長なり民生委員なりが一番情報を手に入れることができる場であると思う。それをどうしたら良いのかというのは難しいのですが。
高橋	そのような部分も今後考えていきたいのですが、今、横山さんや委員の皆さんからお話いただいて「要支援者が多い」、「ちょっとしたお手伝いがあれば何とかできる方がいるのではないか」ということが出たのですが、そのちょっとしたお手伝い、声かけをするために、どうしていったらよいのか深めていきたいなと思います。先に小野委員が話されたように地域での集まりを増やすとか何かこう御意見があれば述べていただけたらと思います。
小野委員	要支援者といっても普通に生活しているわけですよね。そこにちょっとしたお手伝いをするにはどうしたら良いかってことですよね。
高橋	ちなみに横山さん、ちょっとしたお手伝いとは具体的にどのようなことがありますか。
横山	例えばですが1人暮らしの方で家族の方に頼れない場合に、これからの季節ですと灯油を入れてほしいとか、雪が多く降った時に雪掻きしてほしい、ごみを出す場所まで行けなくなったということだったり、草取りも含めて庭の木の伐採をしてほしい。前は家具の移動をしてほしいというニーズもあったり、電球をとりかえてほしいとか、体が元気であったり家族の方がいれば、あまり問題にならないようなことが問題になったりしております。
小野委員	今の説明などは、やってほしいとかお願いされるわけですか。
横山	そのようなことを困っているけどどうすれば良いのかといった相談があります。
小野委員	逆にそのような相談をいただければ対応しやすいのですがね。
角田委員	なかなかそのようなことは隣近所に言いづらいのですよね。隣近所

	だからこそ頼めない。役場とか社会福祉協議会だったら頼めるということがあります。
横山	逆にそういった人がいるでしょうし、中には困ったのだけでも近所の方に助けてもらったという形で解決した人もいらっしゃいます。
角田委員	今は施設にいらっしゃるのですが1人暮らしで旦那さんも認知症で入院がちの方のところに近所の方がお手伝いをしていたら、何回も呼ばれるようになってしまったということがあったそうです。閉口してしまって、あまりにも呼ばれすぎるので私に相談されてきた方がおります。気にかけてくれる身内もいなくて日に2回も3回も何の事もない用事で、認知症の初期だから歯止めも効かないのですよね。
佐藤委員	隣近所とはいっても限界もありますからね。
角田委員	私も親しく出入りしていた方だったのでお手伝いしました。
横山	柴田町の取組のように身近な支え合いと介護サービスの間を埋めている感じなのかなという気もします。
相原	他に多いのが「時々訪問してほしい」「声をかけてほしい」「私たちが用事があって訪問するのではなくちょっとよってみて元気だなというのを確認してほしい」というのが、一緒に住んでいない特に県外とかの子どもさん方からの要望があります。電話もするけれども人の目で何ということはないのだけれど短時間でお話していただけないだろうかとか、変わったことがあれば報告してほしいなど、いつも解決の手段のない悩ましい相談だと思っております。
高橋	それはサービスでは解決できないものですよね。
相原	サービスほどではない、けれど毎日、ご近所の方や民生委員さんが訪問するわけにもいかない身近な支え合いと介護サービスの間のことなのです。
高橋	先日の暮らしのサポーター養成講座の際に資料で使用したのですが37ページの生活支援のイメージが書いてあります。左側が制度に基づくサービスで、その隣が制度外の生活支援サービス、あと地域の支え合い活動、見守り活動、お茶のみ会、日常的な助け合い支え合い、名前のないお裾分けとか、イメージを分けてみました。 今、話し合っているのが、ちょっとした声かけとかというのは制度では対応できない。日常的な助け合い支え合いでは自然発生的に皆さんやっているのですよね。情報交換会でもやっているという声があることがわかってきて体制整備を進めていかなければと思っはいるのですが、柴田町の話とかも聞いてきて仕組み的なものも必要なのか

	<p>など感じました。</p>
角田委員	<p>私の地域で、すごく衝撃的なことがありまして奥様に先立たれてしまって1人暮らしになって、近所の旦那さんと2人暮らしの奥さんが昔から家族ぐるみで親しくお付き合いがあったことから、時々、煮物だったり多く調理したものをお裾分けしていたそうです。そうしたら、未だに地域では偏見があるのか、近隣から変なふうに言われて、うわさになっているよと教えてくれた友人がいて、そのような噂を立てられるなら二度とお裾分けしないと断っていました。</p> <p>ずいぶん昔はそのような偏見はありましたよね。未だにそのような感覚があるのだということに、すごく衝撃を受けまして国だって町だって、お互いにお裾分けしたり支え合ってと声がけして、厳しい社会情勢の老後を乗り切っていこうよという時代に何を言っているのという感じです。</p> <p>このような話になるとお裾分けやごみ出しなど、手伝い辛くなってしまう。未だに昔のような古い感覚を持っていることに本当にショックでした。</p>
小野委員	<p>生活支援で何か新しいサロン活動しましょうというのは難しいので、行政区単位などでなく狭い範囲でやらないといけない部分がとても多いと思います。</p> <p>避難訓練をやる場合に、班毎にしましょうとかやっておりますが、うちの地域ではもっと分割して3人くらいのグループを作っております。この単位では日ごろから各々を気にして生活していきましようとしております。別に何をやるわけではないのですが気にしながら生活して何かあったら班長や区長に相談していると状況が容易にわかるわけです。班長が全部カバーするのは大変なので3～4軒程度であれば、見守るというのではなくお互いに意識しながら生活しましょうというのであれば何の支障もありません。</p>
高橋	<p>やはり負担にならない程度というのがよいのかもしれませんが。</p>
小野委員	<p>ほかに何かございませんか。</p>
高橋	<p>もう少し詰めたとは思いますが、要支援者の方々が多いということでサービスでもどうにもならないというのと、地域でも個人では限界があるというところが出たので、何があるといいですかね。</p>
佐藤委員	<p>さっき横山さんが話されていたごみ出しにしろ、草取り、灯油入れ、そのような要望が事業所にも来ます。ただそれをヘルパーがやってしまうと介護が必要な方たちに肝心のマンパワーが回らない流れに事業所自体がなくなってしまうので、やはり地域で互助という部分がもっと定</p>

	<p>着できたら、わざわざ有資格者が大きな料金をいただきながらしくともよい体制作りが必要なのだらうなと思います。</p> <p>先ほどの柴田町の資料を見させていただくと、すごい件数の利用者さんがいらっしゃるし、実費でいただいで行いうサービスもJAで行ってはいませんが、それすら負担になる生活保護の方などもいらっしゃいますし、現状を考えるとケママネジャーのほうでも悩んでいる状況もあるようです。</p> <p>先ほど小野委員が話されていた近隣でお互いを気遣う、そういう仕組みの活用が自然と広がっていけばいいですね。</p>
永沼	生活保護は150件前後でずっと推移はしているものの、社会背景上、今後も減ることはないと思われます。
横山	受ける方にはならないけれども相談という形でいらっしゃる方は増えてきております。
佐藤委員	上手く介護サービスの中に組み込めてやっている方は幸せなほうであると思います。それすらも受けられない方がやはりいらっしゃる。
永沼	<p>先ほどのちょっとしたお手伝いというところで、単発で何とか解決するものと、ずっと関わって何回もというようなパターンとたぶんあるのかなと思います。頻度、寄りかかれ過ぎてしまって負担になってしまった時に単発ではない定期的なものといえば、まずはゴミ捨て、灯油入れは時期的なものですけど、これだって使う頻度によれば冬期間はある程度の回数というものが必要となります。社会福祉協議会のほうにも、やはり灯油入れだけしてもらえないだろうかと相談があります。</p> <p>私たちは近くの人をお願いできればと思うのですが、近くの人だと迷惑をかけるからと遠慮してしまうので、誰か違う人と言われたことがあります。それでは誰?となってしまいます。</p> <p>他のニーズは単発なのかなと、電球替えや雪かきも今は年に数回程度ですし、草刈りなどは単発ですが庭が広い家などは定期的な対応が必要になるのかなと思います。</p>
横山	柴田町でも利用件数のうち移動支援が相当多かったのですが、やはり病院と一緒に行ってほしいというニーズが課題として出てくるのかなと思います。1人で行ける人は問題ないのですが、単身で行けない方であったり、病院の中でふらつきがあったりして誰かと一緒じゃないと通院して帰宅するまでができないとか、そういった方などもいるのではないのでしょうか。実際に山の神のボランティアさんは病院に付き添って帰ってくるという形を取ってらっしゃいます。そういった部

	分はヘルパーさんでも、そこまではやっていないですよ。
角田委員	ある程度、私の年齢くらいになってくると、友人等とよく話すのですが、高齢になってきて車で踏み間違えたとか突っ込んだとか事故を起こしていますよね。病院の中を付き添うのは問題ないのですが車で病院まで送り迎えするのは運転に自信が無くなってきてしまうので不安があります。
横山	そうですね。柴田町でも75歳までにしているとか、実際にうちの町の方で誰かに付き添ってもらって受診が必要な方だと町外の有償ボランティアとかを使っている人もあります。
小野委員	柴田町は回数券があって300円券とかでお願いすれば協力員が30人以上いてやってくれるというシステムを持っていて、なかなかうちの町では実現することは難しい。実際に町では84歳でボランティアをやっていらっしゃる方がいて年下の対象者を送迎しているとの事です。
高橋	その場合は自分の役割というか生きがいになっているのでしょうか。 誰もやらなくて、だから自分がやらなくてはその方は話されております。
小野委員	そこは後継者などを育てていくことも課題ですよ。何かあった場合は本人の責任になってしまうようですよ。補償も何もない。そこが問題であると思う。
永沼	一応保険はかけているとのこと。移送サービス保険というものを全国社会福祉協議会でやっておりまして、それに掛けています。何かあった際の怪我と事故の補償の部分です。それが無いと何かあった際に怖いですし、でもそれを掛けていたからいいのかという問題もあります。
小野委員	柴田町のようなシステムの確立とサポート体制が理想ではあるのですが。 仕事をしている人が手伝うというのは難しい。現実には今は70歳くらいまでは仕事をしている方が多いのではないかと。
角田委員	女性がボランティアするといっても灯油入れなどはタンクを持つことができないため難しい。
高橋	柴田町の仕組でも協力者の方たちが、いくらお金がもらえるというのがモチベーションの維持ややる気にもつながっている。
小野委員	気持ちだけの報酬であっても違いますからね。
高橋	そういうものに参加することで元気になれるというメリットもある

	のかなとは思いますが。もし柴田町のような仕組で美里町もと考えた時にどうですかね。
小野委員	美里町は広すぎる。
高橋	理想はどれくらいの範囲ですかね。
小野委員	範囲というよりも協力してくれる人が何人いるかということ。皆さんそれぞれ仕事を持っていますし、我々だってなかなか手伝うわけにはいかないです。
相原	たぶん手を挙げてくださいというより、暮らしのサポーター的に研修会みたいなものを通して、そのようなところに来れる人はある程度時間も調整できる方だと思うので、そのような方々を今後、このような仕組の中に活かしていくということを最初から参加する皆さんにもお知らせしながらできたらいいのかな。急にやりませんか？はい、やりますというわけにはいかないと思うのです。
小野委員	行政区単位で少数参加できる人を募ったとしても、全て併せれば結構な人数になるかと思えます。そのような方々に講習を経てやってもらうのもよいのではないのでしょうか。不可能ではないと思えます。
横山	先日、介護予防の話もしましたが支援してくれる方が負担だけ感じてやるのではなくて、誰かのために関わるとか社会貢献、社会参加するとか、助けてあげる側の健康維持や、自分のためにもなるというような視点も持っていただきながら助けていただく、手を貸してもらうという双方のためになっていることという視点も必要かなと思えます。
佐々木	それをコントロールする機能もどこかに無いと駄目ですよ。お互い任せだと要求だけが先行してしまう。
横山	コーディネート役はやはり必要でしょうね。
永沼	受け手と支え手の真ん中に誰かがいないというのは柴田町でいう社会福祉協議会がその役割を担っています。要望も社会福祉協議会で受けて協力者の方に話をして協力者と利用者の直接のやりとりはなしということが基本で必ず仲介してということが必要かと思えます。
横山	できれば行政区や小学校区単位で取りまとめると範囲的によろしいかと思えます。
角田委員	逆に近しい人だと嫌だという人もいるから近隣の行政区から支え手を募るのもいいかと思えます。
小野委員	社会福祉協議会あたりで上手いことまとめて、しくみは作れないものですかね。
相原	社会福祉協議会から発信するのももちろん良いことだとは思いますが

	<p>が、せっかくここで話し合われたので協議会でこのように課題を感じて必要なこと、思っていることを何かの形で発信する、行政とか社会福祉協議会が感じて発信したというのではなくて、実際にこの町に暮らしている皆さん方の中から声が出た、だから形にしていくという発信の手法の方が、周囲に響くかもしれません。もちろん音頭を取るのはこちらがやりますが。</p>
高橋	<p>仕組の話で出たことなのですが、現在のシルバー人材センターの手法と同じなのですよ。</p>
永沼	<p>現在のシルバーでもワンコインで、このような仕組を実施しようか検討しているようです。前回の協議会でお話していたような気がします。本日、伊藤委員は御出席していないので見通しがどうか確認はできないですが。</p>
佐々木委員	<p>たまたまそのような組織があるのですから、新たにしくみを作るよりは、そこに乗っかると実施し易いですよ。</p>
高橋	<p>既に会員がいるのでそのとおりですね。</p>
相原	<p>現実的にシルバー人材センターとの兼ね合いを考えるとすれば、この場でなくて別にきちんと状況確認する必要があります。</p> <p>この場に来ているのが本日欠席している局長の伊藤委員だけです。現実的に組織としてどのようになっているかこの場の誰もわからない。見通しを持った話なのかそうではない話なのか、組織に対しての確認というものが必要になってきます。</p>
高橋	<p>ここを誰が担うというところで案としてですが社会福祉協議会とシルバー人材センターが出ておりますけど、他にはどこか考えられますかね。</p>
小野委員	<p>他には考えられません。</p>
永沼	<p>私は各コミュニティセンターでやるというのも1つの手ではないかと考えております。相談、調整、管理をやってもらうのもいいのかなと思います。地区社会福祉協議会で人の確保を考えた場合、コミュニティセンターも悪くない。</p>
佐藤委員	<p>頼みやすいイメージはありますね。</p>
永沼	<p>エリアを考えると馴染むと思います。</p>
佐々木委員	<p>どこかテストケースで実施して問題点の洗い出しをして改善してから展開できるとベストですね。最初からこれが上手くいくかということではなくて、いろいろな問題を抱えたまま全域で実施するとそれが定着してしまいどうしようもない。</p>
小野委員	<p>もし実施するとなれば、話に出た団体に一度集まってもらって話を</p>

	<p>する必要があるのではないか。窓口は必ず1つにする必要があるから具体的な内容を話し合いながら調整を進めていったらよろしいかと思う。</p> <p>案外、各行政区には協力してくれる方が必ずいるはず。</p>
角田委員	<p>私の行政区では全てを自治会でやろうとしているので他の行政区もとなると難しいかと思えます。</p>
小野委員	<p>行政区は全て行政区でとなると今の話は成り立たない。そうになると難しい。</p>
永沼	<p>他にお金の設定の仕方というものもあるかと思えます。</p>
佐々木委員	<p>そこはシビアですよ。この部分の理解はまだまだなれないと思います。</p>
永沼	<p>横山さんが言ったように、自己の健康づくり、生きがいづくりに繋がるとしてもらえとは思いますが、実際は時間も拘束されるし手間もかかるし、ある程度の金銭的なものがないと難しいかと思われます。</p> <p>現在、コミュニティセンター単位にあるのが、地区社会福祉協議会、ただし住民の方々の組織でやっていただいているところで、山ノ神のように地区社協単位でやるのは事務局単位で常駐する職員が必要となるため、なかなか難しいところです。</p>
角田委員	<p>常駐する職員、社会福祉協議会やシルバー人材センター、コミュニティセンターのようであれば成り立たせるのは難しい。</p>
小野委員	<p>多くの意見をいただきましたが、一度考えてみる必要がありますね。</p>
高橋	<p>今後、しくみを整理していくにあたり、どこが担うのか等の団体の兼ね合いもありますので、今年度、慎重に考えていきたいと思えます。</p>
小野委員	<p>慌てることはないので、今年度いっぱいかけて協議して、ゆっくり進めていっても何ら問題はない。</p>
横山	<p>サポーターの講座に来てくれている方がこういったことを見てくれた場合に、どのように思ってくださいのかといった意見なども聞きたいですよ。</p>
小野委員	<p>講座を受けている方は、何かしら興味を持ってくださるのではないのでしょうか。</p>
相原	<p>今月も講座があるようですが、その際にこんな仕組があればどうですかねなどの何らかの意見を聞ける機会があれば、次の会議での参考になるのではないのでしょうか。</p>
高橋	<p>検討してみたいと思えます。</p> <p>多くの御意見ありがとうございました。</p>

小野委員	(1) は終わりによろしいですか。
高橋	(2) も先ほどの説明と一緒にお話できました。
小野委員	それでは (4) について説明をお願いします。
	高橋生活支援コーディネーターからパンフレットについての説明
永沼	現在、訪問する場合は「おげんきですか。」を持って行って説明するので、それだけでは不十分な部分をパンフレットで補完したい。
	11時56分終了

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和元年 月 日

委員 _____

委員 _____